

No. 117	ばとこいあ通信	SONG FOR THE PEOPLE BY THE PEOPLE
発行日 2021. 4. 11		編集 千松 幸夫
発行：ばとこいあ神戸事務局		
事務局： 尼崎市築地5丁目3-12 千松 宛 Tel：090-8216-1243	E-mail： batokoia-kobe @imail.plala.or.jp ホームページ： http://www9.plala.or.jp/batokoia/	

いったいいつになったら、この難儀を終息できるんや！

「非常事態宣言」が解除されてすぐ、新型コロナの第4波が襲ってきた。昨年からはまった「コロナ過」の中でほん(日本人)は何を学習してきたのだろう？相も変わらず、国民に自粛を呼びかけながら、与党(自民・公明)代議士や国家公務員の時間外飲食(風営法対象施設)、地方公共団体の首長や議員・職員の時間外や大人数の飲食等々不祥事が続いている。やった奴らも腹の中では「不祥事」とは思っていないのだろう！「医療崩壊」「医療崩壊」と叫び続けているが、医療体制の再編には何の手も打っていない。どころか、厚生労働省は地方の病院を統廃合して「無医村」を増やそうとしている。

昨年にはマスクが不足して「高額転売」が横行した。政権がやったのは「転売禁止」の法案作成だけ。台湾では即座に市場のマスクを政府がすべて買い取り、配給制にし、政府主導でマスクの増産に取り組んだ。更にすぐさま国境を閉鎖し累計感染者数は1023名(3月29日現在)。日本では47万7774名(4月1日現在)。

内閣にも官僚にも「感染症」の専門家も、感染症の治療の経験者さえいない。「専門家会議」はあることはあるが何も実権を持っていない。全ては『政治判断』で決定される。「GO TO トラベル」も「GO TO イート」も打ち切り判断が遅いし、「緊急事態宣言」の発令も大幅に遅れた。「新自由経済」の影響で経済の停滞を恐れたため対策が遅れに遅れている。これは世界的な傾向だが。いったい何度「緊急事態宣言」を発令する気だろう。過去2回の発令で国民は疲れ切っている。「卒業旅行」、「歓送迎会」や「お花見の宴会」は自粛してくださいと言われても官僚どもが率先して破っている。人の動きが増えれば感染者は急増する。感染症のイロハだろう。

「日本学術会議」の推薦会員候補6人の任命拒否などやってないで、超法規的に病院(規模を問わずに)を一元的に国の支配下に置いてすべての医療者ですべての「病」に即対応できるようにし、全ての「医療従事者」の待遇を相応に引き上げることが大切だろう。「介護者」も当然だ。今現在の社会生活の中で「儲け」は二の次にして、国家上げて対応していかなアカンやろう。

このことが、今の国会議員どもは誰も分かっていない。未だに「国会解散の時期」について喧々囂々している奴らばかりや。戦前の「大政翼賛会」や無しに「主義・主張」を一旦棚上げにしてやっていかへんかったら、いつまで経っても収束なんぞせえへんぞ！

2021年1月17日（日）

神戸学生青年センター・スタジオ

参加者6名（表現者5組5名）

いまだコロナ過で参加者が少ない。が、神戸学生青年センターが3月末で移転するのでこれがこの場所での最後の開催となった。（が、その後4月いっぱいまでの使用に改められた。）

でも気丈な、予防対策をしっかりしている人が6人集まりました。感染を危惧する人たちが大勢います。早く収束してほしいね。ガースーと自・公(維新も)は何を考えてるんやろう。経済なんか後でも、しっかり国民保護に全力を挙げて、兎に角感染を収束することに全力を注げよ!!



👉 宮崎 隆(根津実)さん 👈



👉 木人軒さん

木人軒さん ➡



👉 うたた音さん ➡



👉 矢谷 トモヨシさん ➡





👉 綾城 滋さん 👈



Photo by Yukio Senmatsu

『ばとこいあ神戸』こもごも

『ばとこいあ神戸』の歴史 その30

千松 幸夫

【第2部】第Ⅱ期『ばとこいあ神戸』

【第22章】

第54回 ～ 第55回、竹勇さんと一緒に、第56回 ～ 第57回

第54回は2009年12月13日（日）。場所は神戸学生青年センター・スタジオ。参加者9名（表現者7組7名）。晴れのち曇り

昨年（2008年）の12月、台湾国内では台北・高雄などの直轄市を除く地方選挙が実施された。その結果、緩やかではあるが民進党の得票数が国民党の47.88%に対し45.32%になり、2.56%まで迫ってきた。これは馬政権に対する台湾国民の目が再び「真の自由」を求める方向へと緩やかに向き始めたと思われる。

私が知る限りでは、2008年再び権力を手にした馬政権の独断・偏重の政治運営に多くの台湾国民が深い失望と怒り、疑問を抱いた事だろう、また中国共産党への急接近に対しても同様の危機感を感じてた今回の選挙結果であろう。

しかし、依然として馬政権の国民党は権力の座に君臨している、それに対して白色テロルを体験された受難者の人たちの多くは、二度と再び暗黒政治には戻らせないと現在も逞しく活動されている。蔡焜霖さんもその1人、蔡さんは台湾では非常に有名な学者であり、かつ人権活動家でもある。その蔡さんに毎回台湾でのフォーラムやコンサートで、厚かましくも私の通訳をしていただいているのだ。

昨年の台湾平和音楽祭の時、蔡さんはステージで、若い参加者に向かって「私が日本語を勉強したのは、緑島での収監時代だった。いわば国立の緑島大学を卒業したようなものだ、拷問や虐待に屈することなく生きること多くを学ぶ知恵も必要だ」と笑顔で話されたことが深く心に焼き付いている。そのような逞しさこそが今の台湾の国民の支えになっているのではないだろうか。恐らく今後、台湾はゆるやかで逞しく変わっていくことだと信じています。

（2010年年頭に思う・りゅうじろう）

（「ばとこいあ通信」第52号より）



隆二郎 & 矢谷 トモヨシさん
隆二郎





👉 山下 汀さん

泉 徹也さん 👈



👉 IWAO さん

ジョーゼット加藤さん 👈



👉 中野 誠三さん

矢谷 トモヨシさん 👈



第55回は2011年2月13日(土)。場所は神戸学生青年センター・スタジオ。参加者22名(表現者10組12名)。晴れ時々曇り。翌日は永井ますみさん主催の「竹勇さんと一緒」が開催された(次項)。



👉 IWAO さん

ジョーゼット加藤さん & 加藤 絵里子さん 👈



👉 ジョーゼット加藤さん

加藤 絵里子さん 👈



👉 石原 裕美さん

石間 武さん 👈



👉 仁田 昌司さん



☞ 隆二郎

隆二郎 & 矢谷 トモヨシさん ☞



☞ 永井 ますみさん

下地 信さん ☞



☞ 矢谷 トモヨシさん

渡辺 博昭さん
& 中嶋 初恵さん ☞



☞ 渡辺 博昭さん

Sing Out ☞

「普通の女の子に」



翌2010年2月14日(日) 「竹勇さんと一緒」。場所は神戸学生青年センター・ホール。子の開催には「ばとこいあ神戸」も協力した。



☞ 永井 ますみさん

山本 竹勇さん ☞



☞ 玉川 侑香さん ☞





☞ 辻下 和美さん ☜



☞ 志摩 欣也さん ☜



☞ 永井 ますみさん ☜



☞ 矢谷 トモヨシさん

隆二郎 ☞



☞ 矢谷 トモヨシさん
& 中嶋 初恵さん



☞ 山本 竹勇さん ☜



第56回は2010年4月3日(土)。場所は神戸学生青年センター・スタジオ。参加者14名(表現者9組10名)。晴れ。

何よりも素晴らしいのは、新しく参加して下さった方自身「歌いたい」「演奏したい」「朗読したい」等々、気持ちが前面に出ていることだ。「ばとこいあ神戸」という空間は表現者の「・・・したい、・・・してみたい」気持ちが作り出す空間なのだから。

私たちは表現者のテクニックの上手さを比べたり、評価することは断じて行わないし、そのような表現空間では断じてないのです。何度も言っていますが表現者の表現から何を聞き、それに対し聞き手は何を返すのか、表現でキャッチボールをする空間なのです。ある時はその人の歌や詩に込められた想い、叫びを聞き、自身の表現で自身の想いや叫びを返す、そのような空間なのです。

でも、決して難しく考えないで下さい。「歌いたいから唄う」「演奏したいから演奏する」「詩を聞いてほしいから読む」そんな気持ちで十分です。それらが多くの人の参加により充実した面白さが生まれてくると思うのです。

だから、ここ最近の表現内容の具体的な変化は、表現者たちのトークが人生や生き様を語られ、それらの思いが断片的ではあるが、かつてよく見た8ミリ映画のコマ送りのように見え、伝わってくる。

無いものねだりかもしれないが、ここに若い人たちがいれば、より具体的に表現と表現者の人生とがかもし出す瞬間とその意味を知ることが出来るのに・・・。

ばとこいあ神戸は世代を超えた表現でのキャッチボールが理想であり、それを作りたくて求め続ける空間なのだが。今の時点では、もったいなくもあり、残念でもあると思ってしまう。

しかし、無いものねだりをしてもしょうがない、現時点ではあるがまま自然発生的に表現空間をみんなで、気楽に、面白く創り続けて生きたいと考えています。

(ばとこいあ通信 第54号より)



☞ 隆二郎

ジョーゼット加藤さん ☞



☞ 中嶋 初恵さん

中嶋 初恵さん ☞
& ジョーゼット加藤さん





👉 George Nitka さん

山下 汀さん 👈



👉 ジョーゼット加藤さん

中野 誠三さん 👈



👉 IWAOSSA さん

彼末 れい子さん 👈



👉 彼末 れい子さん
& 村上 数枝さん

(まだ、「金孔雀」とは名乗っていない)

村上 数枝さん 👈



👉 隆二郎

隆二郎 👈
& 矢谷 トモヨシさん



矢谷 トモヨシさん 👈



第57回は2010年6月12日(土)。場所は神戸学生青年センター・スタジオ。参加者18名(表現者14組15名)。晴れ。

またまた、めんどくさいことを言い始めよった、と敬遠しないでください。ここで言う哲学とは、広辞苑などで引くと「俗に、経験などから築き上げた人生観・世界観。また、全体を貫く基本的な考え方」という意味で、前回のこの紙面でも書いた内容と少し重複するのだが、6月の「ばとこいあ」では表現者の参加が多く、時間に追われてしまい参加者の皆様には不満を与えてしまい申し訳ありませんでした。しかし、最初から最後まで言葉のキャッチボールが続いた事は素晴らしく「ばとこいあ」が求めていた一部分が顔をのぞかせた瞬間でもあった。

事の発端は一番最初に表現された George Nitka さんの「縄文人」がキーワードとなり、後に続く方々が自らの哲学的内容で『縄文人』を語り継がれた。

特に6月の「ばとこいあ」では表現された方全員が、喋りたくて喋りたくてウズウズされているのが伝わり、パワーが感じられた。進行役の千松氏も何処で切ればいいのか迷いながらも面白さのあまり聞き入ってしまい、結局個々の持ち時間をオーバーしてしまう結果になり、最後に表現される方には持ち時間が短くなってしまい大変申し訳なく、事務局として大いなる反省をしています。

しかし、トークの内容は、それぞれの人生経験から学ばれた哲学を基に「縄文人」に関する想いや考えが、どんどん膨らみ、話が湧くがごとく続き、聞いている人たち皆も引きずり込まれていく。更に続く各々の表現に想像も加わり色彩豊かな雰囲気にも包み込まれていた。

(ばとこいあ通信 第55号より)



☞ 保田 留さん

George Nitka さん ☞



☞ 山下 汀さん

小北 一夫さん ☞



☞ 辻下 和美さん

中嶋 初恵さん ☞



☞ 中野 誠三さん

隆二郎 ☞



☞ ジョーゼット加藤さん

伊藤 敦さん ☞



☞ 矢谷 トモヨシさん

永井 ますみさん ☞



☞ 村上 数枝さん

彼末 れい子さん ☞



Photo by Yukio Senmatsu

隆二郎 歌集 -20

「ばとこいあ神戸」のLPに入っている。高校卒業後住み着いた神戸の街について語っている。ユズルさんと出会って旅に出続けていた時期、「ばとこいあ神戸」を始める前の心情が語られている。

神戸の街を語る

詞・曲 : りゅうじろう

出船 入船 にぎわう港
つんつんすました 三の宮
でしゃばりお山が 海まではい出す
それが神戸 港町

俺が神戸に流れてきた夜、町は雨上がりで霧が立ち込め、霧笛が聞え、とてもロマンチックな夜であったように思う。

俺が前にいた街から見れば、まるで嘘みたいに静かで、石コロや火炎ビンやデモの渦巻きなんてまるでなかったかのように平穏な顔をしていたし、何より嬉しかったのは顔見知りの奴が誰もいないということだった……。

一つの歴史の大きな曲がり角を俺なりに必死で歩いてきたんだけど、とても疲れて一人になりたかったんだ……。

だから俺はこの街でもう一度出直してみようと思ったんだ。

街行く若者 流行の服に
流行の音楽 身にまとい
求める自由は カッコの良さだけ
それも神戸 港町

そんな時、俺は片桐ユズルと出会った。新宿西口のあの歌の渦を忘れられないでいる俺を見て、彼は、もう一度唄い始めたらどうだ、お前さんの怒りの歌を、と言ってくれた。そしてプロテストソングのないフォークソングの淋しさを語りあった。

俺を旅に誘ってくれたのも彼だった。見知らぬ街の喫茶店や街角や公園で唄うことのおもしろさを教えてくれたのも彼だった。そんなわけで俺とギターの旅が始まったのだ。街の中で出会った素敵なシンガーたちや旅人たち、酒飲んで一晩中騒ぎ回ったこともあったし、夜汽車で唄い語りあった奴もいた。

だけど、ふと気が付くと、今いる神戸の街には唄う仲間の少ないことや、唄える空間のない寂しさと虚しさが、俺をこの地に落ちつかせたのだった。

あんなに仲間をいやがっていた俺なのに、必死で仲間を求め、走り回ったのはずいぶん昔の事だった……。

ほんのわずかな 歌好き仲間が
唄い始めた ばとこいあ
寂しいお前も 今では歌うよ
それも神戸 港町

いろんな若いシンガーたちと話したけど、殆どみんなが有名になりたがっていて、話がかみあわず、面白くない毎日が続いていた。そんな時の寂しかったことや、有名病の患者の多いことの悲しさを今では忘れない。

俺の求めるものは、誰もが唄える空間なのだ。一本のギターで俺の旅や暮らしや愛が語られる、そして、誰かのそんな歌が聞ける空間がほしかったんだ。

それでもやっぱり時間をかけて、求めていけばいい奴らとめぐりあえるもので、神戸の街の小さな喫茶店で小さな歌の輪が広まり始めたのだった。

流れ流れる 俺等の歌を
仕事と旅の 生き様を
確かな俺等の 今日を求めて
それも神戸 港町

ただ一つだけ確かなことは、今の俺には右手に抱かえ切れないほどの嬉しさと、左手に抱かえ切れない寂しさをしっかりと抱き締めてしまっていることだけは、はっきりと分かるんだ。

もうこれ以上歩けなくなって、疲れてしまっている俺の影をみるたびに、今日こそ、それを捨てて旅に出よう、今日こそは旅に出ようとそればかり考えている。そんな俺を知るばかり……。

どうしようもないこの気持ち、いい仲間がたくさん増えて、とても満たされているようだけど、やっぱり俺は旅を捨てることはできなかった。

何故なら、俺が、生きてると本当に感じるのは、旅をしているときだけなんだから……。

出船 入船 にぎわう港
つんつんすました 三の宮
でしゃばりお山が 海まではい出す
それが神戸 港町

神戸の街を語る

出船入船にぎわう港	G	C
つんつんすました三ノ宮	G	D ₁
でしゃほりあふが海までほい出す	G	C
それが神戸 港町	D ₁	G

僕が神戸に流れて来た時、街は雨上がりで霧がたちこめ
 霧笛が南にえとでもロマンチックな夜であつたように思う。
 僕が前にいた街から見れば、まるでウソみたいに静かで
 石コロや火災ピンヤデモの渦巻なんでもまるまるとか、たかのよりに
 平穏な顔をしていたし、
 何よりも嬉しかったのは顔見知りの方が誰もいないと言ふことだった……
 一つの丁史の大きな曲り角を僕なりに必死で歩いてきたんだけど
 とくも飛れて一人に落ちたかたんだ……
 だから僕はこの街でもう一度出直してみようと思つたんだ。

街行く若者	ほやり 流行の服に
流行の音楽	身にまとい
求める自由は	カッコの良さだけ
それも神戸	港町

そんな時、僕は片桐ユズルさんと知りあつたのです。
 新宿西口のあの唄の渦を忘れられは、こいる僕を見つ
 彼は、君も唄ったらどうだい、君の怒りの唄を、と言つてくれた。
 そしてフロテストリンクのほいフェークリンクの淋しさを語りあつたのでした。
 僕を旅に誘つてくれたのも彼だった。見知らぬ街の喫茶店や
 街角や公園で唄うことのおもしろさを教えてくれたのも彼だった。
 そんな訳で僕とギターの旅が始まつたのです。
 旅の中で知り合つた可笑きなシンガー達や旅人達。酒飲んで一晩中
 さわきまわつたこともあつたし、夜汽車で唄ひ語りあつた奴もいたね……
 たけとふと気がつくと、今いる神戸の街には唄う仲間がいないことや
 唄える空間のほい淋しさと虚しさか僕をこの地に落ちつかせたのだつた。
 必死で仲間を探め、空間作りに走り回つたのはもう3年も前のことだつた。
 あんまり仲間をいっか、つた僕らには。

ほんのわず-かた 唄好き仲間か
唄い始めた ほとこいあ
淋しいお前も 今こいほうほう
それも神戸 港町.

いふん若い唄い手達と話したけど、殆どみんなが有名に
なっていた。話かうまくかみ合わないうちが毎日が続いていた。
そんな時の淋しかったことや、有名病の患者の多いことの悲しさを今でも忘れな
い。僕の救済のは誰もか唄える空間なのだ。一本のギターで僕の旅や暮らしや愛が語れる
としてまた誰かかそんな唄か聞かせる空間がほしかったんだ。
それでもやっぱり時間をかけて求めていけばいい人達とめぐり合えるもので
神戸の街の片隅の小さな喫茶店で小さな唄の輪が広れ始めたんだ。
そして今日 この空間がレポートになるんだ。どう考えればいいのか今の僕にはよくわからな

流れ 流れる 俺等の唄を
仕事と旅との生きかまを
確かな俺等の今日を求め
それも神戸 港町

ただ一つだけ確かなことは今の僕は右手にかかえきれない程の嬉しさと
左手にかかえきれない淋しさをしっかりと抱きしめてしまっていることだけは
はっきりわかるんだ。もうこれ以上歩けないうちが疲れをしまっている僕の影を
見たかに 今日こそこれを捨てて旅に出よう。今日こそ旅に出るとすれば、かまを
考えられている そんな自分を知るばかりなのさ。
いい仲間がたくさん増え、とて満足されているようだけれど、やっぱり僕は
旅を捨てることはできないんだ。
なむなら僕が生きているんだって本当に感じられるのは
旅をしている時以外にはないんだ。

出船入船 にきゆう港
つんつんすました ミ宮
でしゃほりおんか 海子でほい出可
それか 神戸 港町

小林隆二郎 Memorial

「旅の移りに」

CD とリーフレット



SONG FOR THE PEOPLE
BY THE PEOPLE

CD

D i s k 1	1999 年まで
D i s k 2	風来とのコラボ集 (風来ライブとリハーサルから)
D i s k 3	日本国内ライブから
D i s k 4	臺灣から
D i s k 5	『ばとこいあ神戸』から I
D i s k 6	『ばとこいあ神戸』から II
D i s k 7 (Bonus Disk)	『ばとこいあ神戸』からの語り集

プラス2006年から2014年までの映像を取めたDVDを2枚つけます。

データディスクのため、パソコンで再生して下さい。

カンパ 1セット ¥3,000 (送料 ¥1,000)

リーフレット (2015年改訂版)

全136ページ

1999年秋の「新訂版」に2000年以降の唄の詩や、『ばとこいあ 通信』から抜粋したエッセイを付けました。

カンパ 1冊 ¥1,000 (送料 ¥500)

CDとリーフレット一緒の場合、送料は¥1,000です。

『人はみな旅人』 CD

1枚 500円

原稿を下さい。

次の『ばとこいあ神戸』の開催の前月末までに事務局へ届けてください。僕の主張だけしか無くなってしまいますので・・・。

ほんまに言いたいこと無い・・・？

よろしくね！

編集後記

2019年12月に中国・武漢付近で発生が確認され、2020年1月に武漢から帰国した方の初感染が確認された。2月に「ダイヤモンド・プリンセス」号で集団感染が発生した。それから1年3ヶ月。2度の『緊急事態宣言』が発令されたが、未だに「変異株」による第4波が襲って来ようとしている。にも拘らず、日本政府は未だに確実な手を打てないでいる。自粛も一定期間を経れば手が緩んでくるのは人情だ。「ワクチン」さえ何時になったら日本国民全員に行き渡るのが不明だ。日本国内での開発も、今までの政策からは期待できない。

ワクチンも通知が来れば、とりあえず母親だけには摂取しようと思っている。一緒にすると二人とも副作用が出た場合に二進も三進もいなくなるから・・・。僕は摂取するかどうかは迷っている。

COVID-19に感染している人は世界中で1億3千万人を超えた。なのにIOCも日本政府も未だに「東京オリンピック・パラリンピック」を開催しようとしている。一体何人のアスリートが東京まで来れるというのか？海外からの観衆は拒否することは決まったが・・・。今現在は、現生人類とCOVID-19の全面戦争が勃発している状況下だからさっさと中止を決めたらいいのに・・・。そんなに、懐に入る金が大事なのか！

4月28日から5月5日まで「神戸学生青年センター」が引っ越しのため休刊し、5月6日に新しい場所でOPENします。6月の例会から使用しようと思っています。6月に新施設でお会いしましょう。

(千)